

平成31年度愛知県がんセンター公開講座(第1回)のご案内
「令和元年 もっと知ってほしいがんロコモ! (がんであっても「動ける」ために)」
= 令和元年5月18日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「がんロコモって何ですか?—がんロコモ、ロコモ度チェック、ロコモ体操—」

現在は超高齢社会で、2018年には65歳以上の割合が全体の28%を超えました。平均寿命は男性が81歳、女性が87歳まで延びていますが、健康寿命となると10歳程度低くなります。つまり、寿命は延びても、健康で元気に動ける年齢は10歳程度短いということです。

また、がんは2人に1人が罹患して、3人に1人が亡くなっていますが、早期発見や治療法の進歩により生存率は向上しています

ロコモティブシンドロームとは加齢による運動器障害で移動機能が低下した状態を言います。ロコモの原因は加齢ですが、がんになればそれ自体や治療による運動器障害で移動機能が低下します。これががんロコモです。

今回はがんロコモの原因についてお話をします。ロコモは40歳ぐらいから始まるといわれているので、みなさんのロコモがどれぐらい進んでいるのかをチェックして、その予防として普段から自宅で簡単に行えるロコモ体操をご紹介します。

がんの発生は高齢者に多いため、もともと運動器障害を抱えていることが多いです。そのため、がんロコモが発生しやすくなりますので、がんロコモに関して認知すること、それを予防することが大切です。

リハビリテーション部 吉田 雅博

「食道がん手術を乗り越えるために」

今回は、食道がん手術についてのお話をします。

食道がん手術は一般に頸部・胸部・腹部にわたりメスが入る、大変な手術です。筋肉量が少ない人、痩せた人は肺炎などの重篤な合併症率が上昇します。ですから今までの人生で足腰を使ってきたかどうかは大切です。

もちろんそれだけではありません。食道がんと診断されてから、手術前、手術翌日を含めた術後、社会復帰まで絶え間なく「動く」ことが重要なのです。

我々はそういった指導を含めた周術期管理を提供しています。

消化器外科部 医長 檜垣 栄治

「食道がん手術を乗り越えるために」

医療の進歩により食道がんの手術の安全性は高まっています。しかし現在でも、呼吸器合併症の発生頻度が高い手術の一つです。

近年では、手術前から呼吸リハビリテーションやその指導を行い、手術後は早期離床・歩行訓練を行うことが推奨されています。これにより呼吸器合併症の減少、入院日数の短縮が期待されます。

理学療法士は、その一翼を担っており、患者さんが安心して主体的に手術にのぞみ、無事手術を乗り越え、再び手術前の生活を獲得できるよう支援しています。

当院の取り組みを紹介致します。

リハビリテーション部 伊藤 敬太

「脊椎転移の早期診断と最新の外科治療」

脊椎転移はがんが脊椎(背骨)に転移した状態をいい、痛みとともに神経麻痺(手足が動かなくなる)を引き起こします。神経麻痺が起きる前の早期に脊椎転移を発見し治療することは、患者さんのQOL(Quality of Life; 生活の質)を維持することにつながるだけでなく、がん治療を継続していくうえで大変重要です。本講座では、脊椎転移の早期発見に向けた愛知県がんセンターでの取り組みをご紹介しますとともに、最新の治療法について手術療法を中心に話ししたいと思います。

脳神経外科部 医長 灰本 章一